

計	18	18	18	19	18							
	528/540	529/558	522/540	537/558	555/558	/540	/558	/540	/558	/558	/522	/558
入院	12	4	15	9	3							
空室	0	29	3	12	0							
入居率	100%	95.5%	99.4%	97.8%	100%							
稼働率	97.8%	94.8%	96.6%	96.3%	99.46							

地域別利用状況 (R7.8 現在)

波根	久手	水上	長久	大田	川合	大屋	大森	鳥井	静間	温泉津	富山
3人	1人	1人	1人	4人	1人	1人	1人	1人	1人	2人	1人

3、活動状況報告 *以下はスライドをみながら説明

- ・8/23 (土) 夕涼み会
- ・夏休み明け9月から朝波小学校児童の下校時見守り活動を再開
- ・利用者、職員とも世界アルツハイマーデーの展示物作成協力
(波根まちセンからの意見)

Q: 行事に家族は参加しているのか。家族の方に知ってもらうこと、関わってもらうことが大切ではないだろうか。

A: 行事は呼びかけているが参加される家族は少ない。個別の外出や面会は多くなったので、行事にも無理なく参加出来るように案内や情報発信を今後も行う。

③ 運営推進会議検討項目

No.35: 役割、楽しみごとの支援

【評価基準】

- 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている
- 個々の生活習慣の情報をご家族や関係者から収集し、刺し子、散歩などを生活の中に取り入れている。すべての方に対して聴き取りできるように継続して取り組んでいく。

No.48: 本人が持つ力の活用

【評価基準】

- 本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わり交流することができている
- 通いの場への参加、近隣店舗への買い物、家族と外出などを通じて地域との交流が図れている。また、7月に外部のボランティアに依頼し、歌や踊りを披露してもらった。

④ 外部評価関連

※No.12 職員を育てる取り組み

【評価基準】

代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めているか

・7/1 (火) 8/19 (火) 眠りスキャン研修 1名参加

*参加眠りスキャンを取り入れているが、その有効活動について学んだ。

・7/31 (木) ~8/1 (金) 認知症実践者研修 1名参加

*認知症介護のスペシャリストを養成するカリキュラムでステップアップあり。

・8/22 (金) 生産性向上研修 1名参加

*今生産性向上がいわれているが、介護現場でも求められている。

(波根まちセンからの意見)

Q: 眠りスキャンとはどんなものか。最近取り入れたのか。

A: 眠りスキャンは令和3年から少しずつ台数を増やして利用している。利用者の睡眠状態や心拍などをデータ化し生活改善につなげるものだが、覚醒、離床なども分かるためセンサー目的での使用に偏る傾向がある。虐待や身体拘束にもなりかねない為、正しい使い方や活用について研修で学んでいる。

(ご家族からの意見)

Q: 生産性向上とは何ですか。

A: 質の高いケアを行う為に無駄を省き、出来た時間を利用者の直接支援に充てたり根拠書類の作成などの間接業務に充てたりと、本来行うべき介護の仕事に専念できるように改善していくことが介護分野における生産性向上と考えている。研修を通じて介護機器やテクノロジーの活用なども取り入れた具体的な手段を勉強中である。

※No.25 防災対策

【評価基準】

火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている

→11月に日中の避難訓練予定を報告した。また、施設を地域の方の避難場所として提供可能(20名程度)であることをあらためて伝え自治会での周知をお願いした。

(波根まちセンより意見)

足が悪い方の施設利用は有難いので、施設の活用や協力について住民の方にも意見を聴取していきたい。

4、その他

7/24 (木) からミャンマー出身の特定技能実習生1名が勤務開始

大田市よりコロナ流行拡大に伴い注意喚起のレジメ配布あり

次回開催日：令和7年11月19日(水曜日) 9:30~10:30